



<p>社会科の目指す「自らの学びをメタ認知」しながら学び続ける子供</p>	
<p>課題設定</p>	<p>社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連について考察し、社会に見られる課題を把握することで、自ら社会の一員として課題解決に向けて、多面的・多角的に考察する。</p> <p>(1) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察し、社会にみられる課題を把握する。</p> <p>① 日常生活の中での出来事や資料を基に、社会的な見方・考え方を働かせ、分析的に考察することによって、課題追究のための視点(事実)やその意味(解釈)を見出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> 位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して、比較・分類したり、総合したり、地域の人々や日常生活と関連付ける。 <p>(2) 自ら社会の一員として課題解決に向けて、多面的に多角的に考察する。</p> <p>① 持続可能な社会やグローバル化する国際社会における問題などについて、合意形成や社会参画を目指す観点で、解決可能な課題を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「どのように?(様態)」「なぜ?何か?(特色)」「どうしたら?(選択・判断)」など、発展的に生まれる問いを基に、学習問題を主体的に解決しようとする。
<p>課題追究</p>	<p>社会的事象の見方・考え方を働かせながら、課題について探究的に調べたり、考察したりする。さらに、課題追究のための構想(選択・判断)やその過程をモニタリングすることで、課題に応じた追究方法を選択したり、対話的に課題を解決したりしながら社会的事象に関する概念的知識を獲得していく。</p> <p>(1) 社会的事象の見方・考え方を働かせながら、課題について探究的に調べたり、考察したりする。</p> <p>① 社会的事象の見方・考え方を働かせる</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的事象の見方…位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目すること →社会的事象を特徴づける事実を見出す。 社会的事象の考え方…比較・分類したり総合したり、地域の人々や日常生活と関連付けたりすること →社会的事象の特色や意味について解釈する。 探究的に調べ、考察する…社会的に事象に関する資料等を分析し、多面的・多角的に考えること →知識・技能を身に付ける。 <p>(2) 課題追究のための構想(選択・判断)やその過程をモニタリングすることで、課題に応じた追究方法を選択したり、対話的に課題を解決したりしながら社会的事象に関する概念的知識を獲得していく。</p> <p>① 課題に応じた追究方法の選択、対話的な課題解決</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分や他者の課題追究のための構想(選択・判断)やその過程について再認識(メタ認知)することによって、社会生活について総合的に理解を深める。 →概念的知識の獲得
<p>パフォーマンス</p>	<p>学習課題について、資料から読み取ったことや、多面的・多角的に考察、調査、構想したことを基に、論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりする。</p> <p>(1) 論理的に説明する。</p> <p>① 資料を活用し、多様な表現方法で整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 主張文、新聞、白地図、年表等 <p>(2) 立場や根拠を明確にして議論する。</p> <p>① 社会的事象の意味や特色、またはそれについての解釈や相互の関連など、多様な視点を分析、総合した概念的知識について整理する。</p> <p>② 持続可能性やグローバル化する国際社会を考慮し、合意形成や社会参画を目指す観点から、自らの社会への関わり方についての選択・判断についての意見をまとめる。</p> <p>③ 対話的な学びを通して、社会的事象やそれに対する構想(選択・判断)の多様性や、自己の課題追究の意義や価値などに気づき、新たな課題追究へと向かう態度を身に付ける。</p>

～自己を見つめ、学びの主体者となる子供～

カリキュラム・マネジメント
○地域の実態に応じた単元構成
○教科等横断的な視点

課題把握

人々の生活と現代的な諸課題

- ①地理的環境
- ②歴史
- ③現代社会の仕組みや働き

課題設定

社会的事象の見方・考え方

多面的・多角的に考察

課題追究

構想(選択・判断)する学び

情報収集

分析

説明

議論

まとめる

振り返る

メタ認知

課題解決

新たな課題

目指す姿を実現する支援例

【地理的、歴史的、社会的視点から分析、考察できる資料を提示する】

- ・ 社会的事象について問題意識をもったり、課題を把握したりできるように、子供の生活経験との関連が深く、多様な視点から考察できる資料(写真、図、表等)を提示する。

【子供自身が問いを見出し、課題解決に向かう見通しをもたせる】

- ・ 子供達の既存の概念を基に、多面的・多角的な選択・判断を迫られる課題を段階的・発展的に設定し、社会的事象に内在する「多様性」と「持続可能性」の視点に着目させながら、課題解決の方法(比較、関連、総合等)を提示する。

【探究的に追究する手段・方法を学ぶ場を設定する】

- ・ 学習課題の内容や質に合わせて、子供自身が探究的に学習活動を発展的に展開することができるように、多様な課題解決の手段・方法(見学、聞き取り調査、観察、情報収集、表やグラフ、地図等資料の分析、)を学び、汎用的な知識として活用できる機会を、学びのまとめ(単元や一単位時間)の中に適切に配置する。

【合意形成や社会参画への意識をもたせながら対話的な学びを構成する】

- ・ 客観性や実現可能性などを考慮しながら、自己の構想(選択と判断)をモニタリングすることができるように、他者との合意形成や社会への参画意識をもたせながら、対話的な学びの場を構成していく。
- ・ 自己の「学びに向かう力」の変容をモニタリングすることができるよう、教科等横断的なカリキュラム・マネジメントを行ったり、学びの連続性や学びの価値を実感できる場を設定したりする。

【プログラミング的思考を活用する課題や資料を提示する】

- ・ 多様な表現方法の良さや、その価値について考える学びを通して、資料を活用し、多様な表現方法で整理したり、説明したりすることができるようにする。
- ・ 効果的で説得力のある表現方法を活用し、立場や根拠を明確にしながら議論することで、多様な視点进行分析、総合しながら概念的知識についての理解を深める。

【図解を活用したパフォーマンス交流の場を設定する】

- ・ 多様な選択や判断、課題解決の中で集積した情報を図解(思考ツール等)によって整理、分析し、対話的な学び及びそのモニタリングする学習活動を通して、視点や観点を共有しながら議論を深め、主体的に課題追究する態度を身に付けさせる。